

# 中学年に繋げる低学年における小学校外国語のカリキュラム

## Research on the Curriculum of the English Education for 1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup>- year students to be Connected to the 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup>- year Elementary School Students

大里 弘美・西川 珠美（江田島市立江田島小学校）

OSATO Hiromi and NISHIKAWA Tamami

キーワード：小学校外国語・低学年・中学年・認定こども園・カリキュラム

The course of study shows that we educate English from the third grade of elementary school, and the English education is given to younger children. In Etajima city, they started English education in all kindergartens of the city in 2019. From the same time, they are going to make the curriculum for the 1st and 2nd- year elementary school students connect to the curriculum of the kindergarten and the curriculum for the 3rd and 4th- year elementary school students. The purpose of this research is a study to perform cooperation with an area in support of the study that Hijiya University performs. Therefore, the researchers perform this study depending on the situation of Etajima Elementary School. Specifically, we analyze the true curriculum, vocabulary, expression and instruction method for a nearby kindergarten and the 3rd and 4th- year elementary school students. Also the researchers study a raw curriculum for the 1st and 2nd- year elementary school students to connect them.

### 1 研究の考え方

本研究は、江田島市と連携して地域の実態に応じたカリキュラムを作成することを目的とする。そのため、小学校低学年のカリキュラムを作成するに際し、研究校の児童の多くが在籍していた認定こども園と研究校の中学年の外国語教育のカリキュラムの特徴を明らかにし、それらに繋げる小学校低学年のカリキュラムの在り方を研究する。

#### (1) 小学校中学年と認定こども園における外国語教育について

研究校は2018年度から中学年で年間35単位時間の外国語活動を行っている。使用する教材は、「文部科学省新学習指導要領対応小学校外国語教材 Let's Try! ①・②」ある。また、認定こども園では、市が外部委託をし、年中と年長の園児を対象に年間35単位時間（1単位時間25分間）の外国語教育を行っており、使用する教材は、委託先が選定したものを扱っている。これら、研究校における中学年と認定こども園のカリキュラム、特に言語材料と指導方法に焦点を当て分析を行う。

##### (i) 小学校中学年における外国語教育について

「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編」に示されている各領域の目標を次に示す。

#### 【聞くこと】

(ア) ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

- (イ) ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な言葉に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。  
 (ウ) 文字の読み方が発音されるのか聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

【話すこと（やり取り）】

- (ア) 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。  
 (イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。  
 (ウ) サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

【話すこと（発表）】

- (ア) 身の回りの物について人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。  
 (イ) 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。  
 (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編」より

「聞くこと」(ウ) 以外は、各領域の (ア) ～ (ウ) は、易しいものから順に示されている。このことから、小学校中学年の開始は、各領域 (ア) を目標とすると捉えられる。各領域の (ア) について求められている力について詳しく次に示す。

「聞くこと」(ア) は、例えば自分の好きな色や食べ物等を表す語句を、ゆっくり話された際に聞き取れるようにすることを、また、英語による活動経験が少ない児童に早急に表現や話の内容までを聞き取らせることを求めず、自分のことや身の回りの物に関する語句を聞き取ることで、おおよその内容が分かるようにすることが求められている。

「話すこと（やり取り）」(ア) は、挨拶や感謝をしたり、簡単な指示を出したりそれに応じたりする必然性のある場面設定を行い、「やり取り」をすることの大切さ、楽しさを活動を通して実感させることが求められている。

「話すこと（発表）」(ア) は、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、実物やイラスト、写真などを見せながら話すことが求められている。

各領域の (ア) において求める力を比較すると、「話すこと（発表）」(ア) は「聞くこと」と「話すこと（やり取り）」(ア) で求められる力を育成した上で、求めることのできる力であると捉えられる。

以上のことから、小学校低学年では、ゆっくり話された際に自分のことや身の回りの物に関する語句を聞き取るようにすること、挨拶や感謝をしたり、簡単な指示を出したりそれに応じたりするようにすることに繋げる学習を設定することが適切であると考ええる。

次に小学校中学年で扱われている自分のことや身の回りの物に関する語句を、「文部科学省新学習指導要領対応小学校外国語教材 Let's Try! ①・②」を基に表 1 に示す。

【表 1 小学校中学年で扱う使用場面・言語材料・語彙一覧

（「文部科学省新学習指導要領対応小学校外国語教材 Let's Try! ①・②」より）】

学年	Unit	使用場面	主な言語材料	語彙一覧
3	1	あいさつして友達になろう	あいさつ	Hi. Hello. Goodbye. See you.
	2	ごきげんいかが?	状態・気持ち	How are you? I'm fine. fine, happy, good, sleepy, hungry, tired, sad, great
	3	数えて遊ぼう	数	How many 名詞 ? one ~ ten 果物, 野菜, 形
	4	好きなものを伝えよう	一般動詞	I like . Do you like ? Yes, I do. No, I don't. 色, スポーツ, 飲食物, 果物, 野菜
	5	何が好き?	疑問詞 (What)	What do you like? What 名詞 do you like? 色, スポーツ, 飲食物, 果物, 野菜
	6	アルファベットと仲良し	アルファベット 大文字	please, Here you are. Thank you. You're welcome. 大文字, 数

	7	カードを贈ろう	一般動詞 want	What do you want? How many 名詞 do you want? 形, 色, 数
	8	これなあに?	be 動詞 (What)	What's this? Hint, please. It's green. 数, 果物, 野菜, 飲食物, 動物, 色, 形, 状態・気持ち
	9	君は誰?	be 動詞 (Who)	Are you a bear? Yes, I am. / No, I'm not. Who am I? 動物, 身体の部位, 状態・気持ち
4	1	世界のいろいろな言葉で挨拶しよう	あいさつ	Good morning (afternoon/ night).
	2	好きな遊びを伝えよう	天気 動作	How's the weather? It's sunny (cloudy/ rainy/ snowy) . Stand up. Sit down. Stop. Walk. Jump. Run. Turn around.
	3	好きな曜日は何かな?	曜日	What day is it? It's Monday (Tuesday/ Wednesday/ Thursday/ Friday/ Saturday/ Sunday). Do you like Mondays?
	4	今, 何時?	時間 1 ~ 60	What time is it? It's 8:30. / How about you? 数字, 日課・時間 a. m./p. m./wake up/breakfast/study/lunch/snack/dinner/ homework/TV/bath/bed/dream
	5	お勧めの文房具セットを作ろう	身の回りの物	Do you have a pen? Yes, I do./ No, I don't. This is for you. 身の回りの物
	6	アルファベットで文字遊びをしよう	アルファベット 小文字	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have six. Do you have "a"? Yes, I do./ No, I don't. 小文字, letter, try, again, book-store, juice, news, school, station, taxi, telephone
	7	ほしいものは何かな?	(一般動詞 want)	果物, 野菜, 飲食物
	8	お気に入りの場所を紹介しよう	道案内 疑問詞 Why	Go straight. Turn (right/ left). Stop. This is my favorite place. Why? I like music. 学校, 教室
	9	ぼく・私の一日	日課	I wake up at 7:00. Have breakfast/lunch/ dinner, go to school, wash my face, brush my teeth, put away my futon, check my school bag, leave my house, take out the garbage, later, everything, boy girl, yummy, wonderful

※時間数：各学年 年間 35 単位時間

次に「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」を参考にした中学年における 1 単位時間の流れの例を表 2 に示す。

【表2 「文部科学省新学習指導要領対応小学校外国語教材 Let's Try! ①」 Unit 4 第1時の流れ】

時間	学習活動
2	挨拶をする。
3	Hello Song
10	Activity ① 自分のにじをかこう「My Rainbow」 誌面の虹を自由に塗り, 自分の虹を完成させる。
5	Let's Watch and Think ① 映像資料で, 世界の子ども達が虹を描く様子などを視聴し, 自分たちの作品との相違点や共通点に気付く。
5	シャッフル・ゲーム ・指導者とともに色を確認する。 ・指導者がさしたカードが何色か当てる。
5	Activity ② 好きな色を友達と伝え合おう ・指導者の話を聞いて, 好きなものを表す表現を知る。 ・指導者の質問などに応じて, 色を言う。
4	Let's Listen ・誰が何色が好きか聞いて線で結ぶ。
4	Let's Chant 「I like blue.」
5	本時の活動を振り返り, 振り返りカードに記入する。
2	Goodbye Song 挨拶をする。

(「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より)

(ii) 認定こども園における外国語教育について

表3に認定こども園のカリキュラムを示す。

【表3 認定こども園えたじまにおける外国語教育プログラム (年間35時間用)】

単元	ねらい	主な言語材料	Story Board 教材となる文	TPR	歌
1	簡単な挨拶の仕方を楽しむ。 お話に合わせて、いろいろな動作を楽しむ。 果物の名前が英語で分かるようになる。	果物の名前 動き	"Hello, my name is ○○." "Let's play."	Jump, Walk, Run, Swim, Play, Sleep	The Fruit Song
2	「これは○○です。」という表現に慣れる。 「○○しよう。」という表現に慣れる。 昆虫の名前が英語で分かるようになる。	昆虫の名	"It's a ○○." "Let's ○○."	Walk, Juggle, Dance, Fly, Eat	Ant, Beetle, Ladybug
3	簡単な挨拶や自己紹介の仕方に慣れる。 お話に合わせて、いろいろな動作を楽しむ。 昆虫の名前が英語で分かるようになる。	あいさつ 昆虫の名前	Hello. What's your name?" My name is ○○."	Stand Up, Sit Down, Jump, Climb	Hello What's your name?
4	簡単な挨拶の仕方を楽しむ。 「これは○○です。」という表現に慣れる。 動物の名前が英語で分かるようになる。	各国のあいさつ 動物の名前	"Look! It's a ○○." (Hello, my name is ○○.)"	Stand Up, Sit Down, Jump, Climb, Walk, Run, Fly	Look, Look, Look a Hippo.
5	お話に合わせて、いろいろな動作を楽しむ。 「ほく・わたしを見て！」という表現に慣れる。	動物	Look at me ○○!"	Jump, Climb, Fall down, Stand Up, Throw, Catch, Juggle, Ride, Sleep	The Action Song
6	動物の鳴き声について、日本語と英語の違いを楽しむ。 「見て！これは○○です。」と英語で言えるようになる。 動物の名前を英語で言えるようになる。	農場の動物の名前と鳴き声	"Look! It's a ○○." "○."	Sleep, Eat, Fly, Walk, Swim, Draw, Play A	A Little Sheep
7	1から10の数字の言い方に慣れる。 「いくつある？」という表現に慣れる。	数字 (1～10)	"How many?" "1～10"	Walk, Run, Jump, Dance, Fly, Hide, Crawl	Seven Steps Funk
8	1から8の数字の言い方に慣れる。 色の言い方に慣れる。 「いくつある？」という表現に慣れる。	色 数字 (1～8)	How many ○○?" "One ○○."	Happy, Sad, Hot, Cold, Hungry, Sleepy, Angry	Rainbow Colors Simple
9	果物の言い方に慣れる。 色の言い方に慣れる。	果物の名前 色	"What's this?" "It's a yellow ○○."	Touch, Point, Turn, Stop	Apple, Orange, Strawberry
10	外国の文化 (ハロウィン) を知る	ハロウィンについて	"Happy Halloween" (What's this?" "It's ○○.")	Trick or treat	Jack 'O' Lantern
11	外国の文化 (クリスマスとサンタクロース) を知る	クリスマスについて	Happy Christmas" (What's this?" "It's ○○.")	Here you are. Santa	Santa Claus
12	「○○が大好きです。」という表現に慣れる。 お話に合わせて、いろいろな動作を楽しむ。 動物の名前を英語で言えるようになる。	Do you like ~?" の表現	"I like ○○." (What's this?" "It's ○○.")	Love, Like, Don't like, Hate, Yes, No	I Love Fried Chicken
13	「○○が大好きです。」という表現に慣れる。 「○○が好きですか。」という表現に慣れる。 野菜の言い方に慣れる。	野菜の名前	"Do you like ○○?" "Yes, I do./No, I don't." "What do you like?"	Baseball, Basketball, Tennis, Soccer	Do You Like Carrots?

14	「〇〇が好きです。」という表現に慣れる。 「〇〇が好きですか。」という表現に慣れる。 スポーツの言い方に慣れる。	スポーツの名前	"Do you like 〇〇?" "Yes, I do./No, I don't." "Can you play?" "Yes, I can." "No, I can't."	Run, Jump, Throw, Catch, Watch	Do You Like Baseball?
15	「〇〇を持っています。」という表現になれる。 「〇〇をしています。」という表現に慣れる。	身体衣類	"I have a 〇〇." "I have a blue 〇〇."	Touch, Point, Draw, Big, Small, Long Jump, Walk, Run, Swim, Play, Sleep Put on, Take off	Eyes, Ears, Mouth, Nose I Have A Pet What Are You Wearing

(「アルティアセントラル幼稚園・保育園・子ども園向けプログラム」より)

次に、認定こども園向けプログラム第15回「I Have Two Ears.」の単元計画と1単位時間の流れを例として表4に示す。

【表4 認定こども園向けプログラム第15回「I Have Two Ears.」の単元計画と1単位時間の流れ】

時間	学習活動
1	① Ten little Potatoes-Storyboard ② Eyes, Ears, Mouth, Nose-Song ③ Touch, Point, Draw, Big, Small, Long-TPR ④ The Girl and The Robot-Storyboard ⑤ Body Parts-Flashcards
2	① Jump, Walk, Run, Swim, Play, Sleep-TPR ② Eyes, Ears, Mouth, Nose-Song ③ I Have a Rocket Ship?-Storyboard ④ Pets-Flashcards ⑤ I Have A Pet-Song
3	① Put on, Take off-TPR ② 8 Blue Fish-Storyboard ③ Clothing-Flashcards ④ What Are You Wearing?-Storyboard ⑤ What Are You Wearing?-Song

(「アルティアセントラル幼稚園・保育園・子ども園向けプログラム」より)

認定こども園の授業は、TPR、「Storyboard」という紙芝居の読み聞かせ、フラッシュカードによる語句の練習、動作を付けた歌によって構成されている。

i) から、小学校低学年との接続学年である、小学校3年生の言語材料は身の回りの単語や簡単な挨拶や指示、質問に関するものである。また、指導方法としては、テキストを使った聞き取りや友達とのやり取りを活動の柱とし、それを支えるものとしてチャンツや歌が設定されていることが分かった。

ii) から、認定こども園の言語材料も身の回りの単語や簡単な挨拶や指示、質問に関するものであるが、中学年のそれよりも種類も量も多い。指導方法としては、「Storyboard」と呼ばれる紙芝居、TPRと歌で構成されている。

言語材料としては、認定こども園で小学校中学年を上回る言語材料を扱っていることから、中学年の言語材料を設定することが適当であると考えられる。また、指導方法としては、小学校1年生は認定こども園との接続学年であるため、認定こども園の指導方法を重点的に取り入れ、小学校2年生は小学校3年生との接続学年であるため、小学校3年生の指導方法を重点的に取り入れるようにし、段階的に指導方法について身体を使った活動を中心としたものから「聞くこと」「話すこと(やり取り)」の2技能の慣れ親しみを意識した言語活動を中心とした活動へと移行していくこととする。

## (2) 絵本選定の視点について

小学校1年生では、認定こども園の「Storyboard」での読み聞かせとの接続を意識し、絵本を扱うこととする。絵本について、ストーリーテリングの活動を目的とした絵本選びの視点として田淵（2017）は、次の11の視点を挙げている。

まず、英語指導に使用する絵本選書の視点は次の7つである。

- ① リズムがあるライムや日常で使われる優しい単語がある。
- ② 文とイラストがマッチしている。
- ③ 表紙やタイトルが内容を予想させる。
- ④ 起承転結がある。
- ⑤ 文字やスペースが視覚的にはっきりしている。
- ⑥ 子どもの生活体験に近い。
- ⑦ 学習者の読める力に近い。

次に、国際理解を促進する選書の視点は次のとおり示されている。

- ⑧ 今まで知らなかった世界の子どもの日常生活に触れることができる。  
社会性や情緒の発達への寄与の視点は次のとおりである。
- ⑨ 内容に共感できクラス全体の笑い、悲しみ、興奮、予感を呼び起こす。  
その他の視点としては次のとおりである。
- ⑩ 読み手が子どもに読んであげたいと思える。
- ⑪ 高い評価を得て、長く読み継がれている。

研究校はこれまで低学年での外国語教育を行ったことがないことから、まずは、小学校低学年で外国語教育を行っている先進校で高い評価を得て、継続して扱われている絵本を選ぶ。選んだ絵本で授業を実施し、児童の反応を分析する。分析結果から、研究校の児童の実態にあった絵本を選ぶ。このように年間で扱う絵本を、初めから決定するのではなく、児童の反応を見ながら選定していくことで、研究校の限られた授業時間で扱う効果的な絵本を選定していくこととする。

## (3) Total Physical Response（全身反応教授法）と Action Songs について

認定こども園の授業で扱われている Total Physical Response は、第二言語だけで授業をするという観点からすると、直接教授法（Direct Approach）の教授法の一つである。児童英語教育ではよく使われる指導法であるが、アレン玉井（2010）によると、「その基本的な考えは外国語学習の初期段階においては、リスニング技能を伸ばすことに集中するが、リスニングだけではなく体を同時に動かすことで学習効果を上げようというものである。」と示されている。

Total Physical Response の指導方法について「基本的には口頭で反応することは求めず、体を動かすことだけを要求する。（中略）低学年の子どもの場合は、要求しなくても指示語を繰り返すことが多いが、そのような場合は繰り返しが彼らの不安にならないのであれば、口頭反応を含めて体を動かす方法を取ってもよい。」とし、さらに、体を動かすことを喜ぶ年齢を約3～7歳としている。

歌については、年齢の低い子どもほど、動作の付いた歌を好むとし、動作付きの歌（Action Songs）は、内容に合わせた動作をすることで遊びながら歌を覚えることができるとしている。

本研究では、認定こども園の接続学年である小学校1年生では、特に絵本の内容に合わせて体を動かしたり、絵本の言語材料と関連させた Action Songs を歌ったりさせる学習活動を重点的に設定する。

## 2 研究の実際

### (1) 研究対象校の状況について

研究対象 : 江田島市立江田島小学校 第1学年 32名

実施時間数 : 年間 10 単位時間 (1 単位時間 45 分間)

### (2) 絵本を活用した授業の実際

1 (1) に示したように、小学校低学年における外国語教育の目標を「ゆっくり話された際に自分のことや身の回りの物に関する語句を聞き取るようにすること、挨拶や感謝をしたり、簡単な指示を出したりそれに応じたりするようにすることに繋がる力を育成する」こととする。言語材料は、中学年に繋げる視点から、語句については、表1の第3学年のものを中心とし、表現については、挨拶や感謝、簡単な指示を扱うこととする。

本研究開始から本資料作成までの授業実施状況について表5に示す。中学年と認定こども園との関連については、目標に照らし、扱う語句が関連している単元を示す。挨拶に関しては、「Hello song」と「Goodbye song」を毎時間の授業開始と終了時に扱う。また、例えば、感謝に関しては「Here you are.」「Thank you.」など、簡単な指示に関しては「Stand up./ Sit down./ Look at me.」などを日常の場面で扱うこととする。

【表5 絵本を活用した授業実施状況 (年間計画作成に向けた実施)】

時期 2019年	絵本名	歌	動作	主な 言語材料	中学年との 関連	こども園 との関連 (単元)
6月 2回	Tiny Boppers	Ten little Witches	指で数を示す。絵本に書かれた動作を表現する。	数・動作	3年 Unit3 4年 unit2, 4	7, 8
7月 1回	A Beautiful Butterfly			色・果物	3年 Unit7, 8	8, 9
7月 1回	The Very Hungry Caterpillar			果物・野菜	3年 Unit3, 4, 5, 8 4年 Unit7	1, 9, 13
9月 2回	Teddy Bear	Head Shoulders, Knees and Toes	自分の身体の部位を絵本のセリフに合わせて触る。	身体の部位 Put back	3年 Unit9	15
10月 2回	Brown Bear, Brown Bear, What do you see?	Brown Bear, Brown Bear, What do you see?	What do you see? で見渡す動作をしたり	動物・色 What do you see?	3年 Unit9	4, 5, 6

### (3) 絵本ごとの授業の実際

ここでは、児童が指導者といっしょに口ずさむことができた3つの絵本を教材にした授業の流れとその際の児童の様子について示す。

#### ア) 「Tiny Boppers」(1時間目/2時間) 場所: 教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
TPR	絵本に出てくる動作を英語で発話しながら、動作をする。
Storytelling	① 「Tiny Boppers」をALTの読み聞かせを聞く。 ② 「Tiny Boppers」の数の部分をALTといっしょに読む。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Ten little Witches」を指で数を示しながら歌う。
絵本に関連した活動	ワークシートに描かれた Tiny Boppers の絵から、何色の Tiny Boppers がいくつあるかを数え、Tiny Boppers の数だけ色をぬる活動を行う。

先に絵本を読むことを行い、歌うことを後にした。この順番にすることで、絵本のイメージと音

が結びついているため、歌詞のイメージをもって歌っているようであった。また、ワークシートに描かれた Tiny Boppers の絵から、何色の Tiny Boppers がいくつあるかを数え、Tiny Boppers の数だけ色をぬる活動は、色を塗ることが活動の中心となり、英語の学習となっていなかった。

「Tiny Boppers」(2 時間目 / 2 時間) 場所：多目的教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
TPR	絵本に出てくる動作を英語で発話しながら、その場で動作をする。
Storytelling	① 「Tiny Boppers」を読み聞かせを聞く。 ② 「Tiny Boppers」の数の部分を学級担任といっしょに読む。 ③ 「Tiny Boppers」の数の部分を学級担任といっしょに読み、動作の言葉に合わせてその場で動作をする。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Ten little Witches」を指で数を示しながら歌う。

絵本の言葉に合わせた動作では、例えば「Three Tiny boppers are jumping !」に合わせてジャンプしたり、「Three Tiny boppers are rolling !」に合わせて床の上で転がったりする活動を取り入れた。児童は学級担任の読み聞かせに合わせて、発話をしながら動作をしていた。

イ) 「Teddy Bear」(1 時間目 / 2 時間) 場所：教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
Storytelling	① 「Teddy Bear」の読み聞かせを聞く。 ② 「Teddy Bear」の身体の部位を学級担任といっしょに読む。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Head Shoulders, Knees and Toes」の歌を動作をつけながら歌う。
絵本に関連した活動	胴体みの Teddy Bear の模型に、身体の部位の言い方を児童と発話しながら、目、鼻、口、耳、腕、足、しっぽを胴体に付けていき、Teddy Bear を完成させる活動を行う。その後、身体の部位を黒板に張り、教師が隠した部位を英語で当てるミッシングゲームを行う。

この絵本の 1 ページ目は、クマのぬいぐるみが身体の部位を引きちぎられてゴミステーションに捨てられている場面が描かれている。児童はこの場面を見て、「こわい！」と発言していた。次のページから引きちぎられた身体の部位が一つずつ身体に戻され、ぬいぐるみが蘇る話を興味深く聞いていた。教師が準備した模型を使った身体の部位を隠すミッシングゲームでは、半分程度の児童が隠された身体の部位がわかったと挙手していた。

「Teddy Bear」(2 時間目 / 2 時間) 場所：教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Head Shoulders, Knees and Toes」の歌を動作をつけながら歌う。
Storytelling	① 「Teddy Bear」の読み聞かせを聞く。 ② 「Teddy Bear」の身体の部位を学級担任といっしょに読む。 ③ 「Teddy Bear」を学級担任といっしょに読む。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「One little Finger」の歌を動作をつけながら、ゆっくり歌う。

教師が絵本を机に出した瞬間、「こわい話だ。」とつぶやく児童が何人かいた。1 時間目に歌った



「Head Shoulders, Knees and Toes」を読み聞かせの前に歌い、読み聞かせの後に、この絵本の付属の歌である「One little Finger」を歌った。「One little Finger」は「Head Shoulders, Knees and Toes」に比べ語彙が多いため、ゆっくりと歌った。歌の最後に体の部位に手を当てる振りがついており、多くの児童は、その身体の部位のみ、発話していた。

ウ) 「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」(1時間目/2時間) 場所: 教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
Storytelling	① 「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」の読み聞かせを聞く。 ② 「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」の動物の名前を学級担任といっしょに読む。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」の歌を動作をつけながら、ゆっくり歌う。
絵本に関連した活動	動物カードを机に広げ、ペアでポインティングゲームの活動を行う。

児童は、「Brown Bear, Brown Bear, What do you see? I see a red bird looking at me.」をリズムカルに発話していた。ページが多く、最後のページは登場した動物を全て発話することとなっているため、読むことに5分以上の時間を要する。ポインティングゲームでは、教師の発話を繰り返し、ペアで動物カードのポインティングゲームを楽しんでいた。

「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」(2時間目/2時間) 場所: 教室

活動	活動内容
Singing	Hello song を学級の友達とペアを替え、ジェスチャーを付けて歌う。
Storytelling	① 「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」の読み聞かせを聞く。 ② 「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」を学級担任といっしょに読む。
Singing	絵本に出てきた単語を扱った「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」の歌を動作をつけながら、ゆっくり歌う。
絵本に関連した活動	動物の名前を発音をしながら、カードを合わせる活動をする。

2時間目は、ページに登場する動物の真似をしながら、学級担任といっしょに発話している児童が多く見られた。カード合わせゲーム(裏返しに置いてあるカードをめくり、同じ動物であれば、そのカードを得ることができる活動)では、発話をせずにカードをめくっている児童が多かった。

#### (4) 抽出児童の分析

ここでは、(3)に示した絵本の中の2つについて抽出児童の発話状況とアンケートへの記載内容を示す。抽出児童は日頃の英語の発話状況から、3つの異なるタイプの児童を抽出した。抽出児童は日頃の発話状況は次のとおりである。

##### 【抽出児童の日頃の発話状況】

- A 児: 落ち着いて英語を発話する。
- B 児: 日頃から積極的に英語を発話する。
- C 児: 日頃はあまり積極的に英語を発話しない。

ア) 「Tiny Boppers」を教材とした際における抽出児童の状況

① 発話状況

	表 現	A 児	B 児	C 児
1	Hi. This is a tiny bopper. <b>One</b> .	3	3	3
2	<b>Two</b> tiny boppers are hopping.	2	2	3
3	<b>Three</b> tiny boppers are jumping.	2	2	2
4	<b>Four</b> tiny boppers are falling.	3	2	2
5	<b>Five</b> tiny boppers are flying.	2	2	2
6	<b>Six</b> tiny boppers are swinging.	3	3	3
7	<b>Seven</b> tiny boppers are rolling.	3	2	2
8	<b>Eight</b> tiny boppers are standing.	2	3	3
9	<b>Nine</b> tiny boppers are running.	3	3	3
10	<b>Ten</b> tiny boppers are marching.	3	3	3

【3：太字が正確に発音できた，2：太字が正確に発音できなかった，1：太字を発音しなかった】

② 発話する際の様子

	発話状況
A 児	淡々としている。twoを [tsu:] threeを [suri:] fiveを [huaibu] eightを [eru] と発音する。
B 児	笑顔で、特にManyを嬉しそうに発話する。できないときは1から英語で数える。twoを [tsu:] threeを [suri:] fourを [huo:] fiveを [huaibu] sevenを [sebun] と発音する。
C 児	大きい声で自信をもって話している。twoを [tsu:] threeを [suri:] fourを [huo:] fiveを [huaibu] sevenを [sebun] と発音する。

③ アンケートへの記載内容

問「5つの絵本から好きな絵本を2つ選び、好きな理由を書きましょう。」

	アンケートへの記載内容
A 児	つぶが、だんだん増えていくし、最後には100こ分、出たから好きです。
B 児	(この絵本を選んでいない。「蝶々になるのが不思議だったから」という理由で「The Very Hungry Caterpillar」を選んでいる。)
C 児	丸が最後に100人になって、次のページが0人でみんなどこへ行ったのか気になりました。

イ) 「Teddy Bear」を教材とした際における抽出児童の状況

① 発話状況

	表 現	A 児	B 児	C 児
1	I put back his <b>eyes</b> .	3	3	3
2	I put back his <b>nose</b> .	3	3	2
3	I put back his <b>mouth</b> .	3	3	3
4	I put back his <b>ears</b>	1	2	2
5	I put back his <b>arms</b> .	2	2	2
6	I put back his <b>legs</b> .	2	2	2
7	<b>What's this?</b>	1	1	1
8	<b>A tail !!</b>	1	1	1

【3：太字が正確に発音できた，2：太字が正確に発音できなかった，1：太字を発音しなかった】

② 発話する際の様子

	発話状況
A 児	たじたじしていた。mouthの“th”を [s] legsが [lekusu] と発音する。armsの [s] を発音しない。
B 児	最後のページはとてもうれしそうにしていた。earsを [ia:zu] armsを [a:muzu] legsを [lemu] と発音する。
C 児	始終笑顔で、時に拍手をしながら読む。noseを [noi] earsが [hisu] armsを [a:zu] legsを [leku] と発音する。

③ アンケートへの記載内容

問「5つの絵本から好きな絵本を2つ選び、好きな理由を書きましょう。」

アンケートへの記載内容	
A 児	(この絵本を選んでいない。「英語の色もわかるし、歌も分かり易かったから」という理由で、「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」を選んでいる。)
B 児	くまが、だんだんできていて面白かったし、かわいそうな話が好きだから。
C 児	最初はこわかったけれど、後から可愛くなってきて最後はなんで勝手に動くのかなと不思議でした。

(5) 児童の反応に対応した研究小学校1年生における絵本の選定状況

表5に示したように、研究開始の6月に「Tiny Boppers」を活用した。選定理由は、先進校において「Tiny Boppers」を扱った際、児童の反応がよかったこと、短く、簡単な文に数と動作の英語表現が含まれていたことがあげられる。

2つ目の「A Beautiful Butterfly」は色が果物と関連させて取り上げられているため選定した。しかし、一つの場面に「I have to eat something yellow.」と「A yellow butterfly will be nice.」と2文あったため、いっしょに読むことが難しかった。3つ目の「The Very Hungry Caterpillar」も同様に1場面に扱っている文が多かった。

4つ目の「Teddy Bear」は、「I put back his ears.」の1文であったことと、児童が身体の部位が引きちぎられたクマのぬいぐるみに「かわいそう」と感じたり、部位を元通りにしていく行程を嬉しく感じたりする教材であったこと等が起因したためか、児童が最も好きな絵本となった。5つ目の「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」はリズムカルに発話できる文であること、動物を扱っているという理由で選定した。やはり、児童は容易に口ずさむことができ、動物のまねをしながら教師といっしょに読むなどの姿が見られた。

表5に示した5冊の絵本について、児童に好きな絵本を2冊選ばせ、その理由を記述させた結果を表6上段に示す。また、表6下段に児童が記載した絵本が好きな理由を、田淵(2017)が示している英語指導に使用する絵本選書の視点に基づいてカテゴリーに分けた結果を示す。但し、「1 研究の考え方 (2) 絵本選定の視点について」で示した田淵の視点の内、⑩⑪は指導者の視点であることからカテゴリーから外した。また、田淵の視点には属さない理由について⑫～⑮として新たに追加した。

【表6 児童の好む絵本についてのアンケート結果】

質問：「5つの絵本から好きな絵本を2つ選び、好きな理由を書きましょう。」

人気順	絵本名	順位		好きな理由 (一部抜粋)
		1位 (人)	2位 (人)	
1	Teddy Bear	21	4	人形がバラバラだったの後の目かがつくとときにいろんな動物に変身したみたいでした。 くまがだんだんできていて面白かったし、かわいそうな話が好きだから。 だんだん治ってうれしかったから。
2	Tiny Boppers	3	14	ころがっていたところの目がまわっていて面白かったです。 一番、最後の場面で50匹ぐらいいたのに次の場面は何にもいなかったから面白かったです。 止まるときに静かになったから面白かったです。 歌がすごく楽しそうだから。
3	A Beautiful Butterfly	2	5	蝶々がカラフルになっていて、題名もレインボウでワクワクした。 青虫の時に食べた果物の色が食べたものの色だったから面白かったです。
4	Brown Bear, Brown Bear, What do you see?	4	5	いろんな動物がでてきたから面白かったです。 猫の色は黒と白なのに紫になっていて不思議だった。 英語の色もわかるし、歌が分かり易いから。
5	The Very Hungry Caterpillar	1	1	幼虫がいろんな果物を食べていろんな蝶々になったから。 腹ペコ青虫がなしやイチゴやリンゴやミカンを食べたていっばいで苦しうだと思いました。

番号	児童が記載した好きな絵本を選んだ理由	人数
①	リズムがあるライムや日常で使われる優しい単語がある。	4
②	文とイラストがマッチしている。	5
③	表紙やタイトルが内容を予想させる。	1
④	起承転結がある。	0
⑤	文字やスペースが視覚的にはっきりしている。	1
⑥	子どもの生活体験に近い。	1
⑦	学習者の読める力に近い。	0
⑧	今まで知らなかった世界の子どもの日常生活に触れることができる。	0
⑨	内容に共感できクラス全体の笑い、悲しみ、興奮、予感を呼び起こす。	37
⑫	絵に興味がある。	7
⑬	言語材料の理解に適している。	2
⑭	現実とは異なる内容への興味を呼び起こす。	2
⑮	関連する歌が面白い。	2

### 3 分析と考察

認定こども園と小学校中学年のカリキュラムを分析した結果、小学校低学年では、身体を使った活動を中心としたものから「聞くこと」「話すこと（やり取り）」の2技能の慣れ親しみを意識した言語活動を中心とした活動へと移行していくカリキュラムづくりが適当であると考えている。そのため、小学校1年生のカリキュラムを、絵本、歌とTPRを柱に作成し、中学年に繋げる2技能の活動としてカード・ゲームやポインティングゲーム等を取り入れた。

現段階での小学校1年生のカリキュラム作成のポイントとして考えられるものは次のとおりである。

- ① 絵本で扱う英語表現は、児童が教師といっしょに発話できる程度が望ましい。
- ② 絵本は児童にとって内容に共感できるものが、好まれる傾向にある。
- ③ 絵本で扱われる言語材料と歌で扱う言語材料が同じものを扱うことで、言語材料の発話への自信を促す傾向がある。
- ④ 同じ言語材料を扱う絵本と歌は、まず、絵本で言語材料の意味のイメージをもたせ、発音をゆっくり聞かせておくことで、児童の歌での発話を容易にする傾向がある。
- ⑤ 小学校1年生では、絵本を読み聞かせる時間を10分程度以内とし、歌やTPRを前後に設定することで、集中して授業に取り組むことができる傾向がある。
- ⑥ 中学年に繋げる2技能の活動の設定は、児童が言語材料を聞く活動や発話する活動となっているか吟味して設定する必要がある。

今後、カリキュラム作成のポイントとして検討すべき課題は次のとおりである。

- ① 年間10単位時間の時間数と認定こども園と小学校中学年の目標（ねらい）とそれぞれで扱う言語材料にほぼ差異がない（部分的に逆転している）という状況において、小学校低学年の目標をどのように設定するのか。
- ② 児童が、日常生活において「カタカナ英語」で触れる言語材料について、児童の発話が「カタカナ英語」となっていることへの対応をどうするのか。
- ③ 小学校3年生で扱う語彙をできるだけ網羅するよう5冊の本を選定したが、その内2冊は扱われている文章が難しかった。絵本を変更するのか、指導方法の工夫で対応するのか等、検討する必要がある。

### 4 まとめ

研究校の実態に応じた中学年に繋げる低学年における小学校外国語のカリキュラムの作成を試み

た。この試みから、小学校中学年で実施する外国語活動は、学習指導要領に述べられているように外国語に初めて出会うことを前提として作成されているため、就学前に外国語教育を受けた場合、言語材料の側面から考えると発展的な接続は難しい。しかし、子どもの発達段階が異なるため、同じ言語材料を扱っても、児童がそれらの言語材料に出会う場面や状況を工夫することはできる。小学校1年生では、この場面や状況の工夫のため、絵本、歌やTPRを活用し、児童が興味をもって取り組めるカリキュラムの作成を行うことは有効なカリキュラム作成のポイントの一つであると考えられる。

今後は、小学校1年生のカリキュラムの見直しとともに、身体を使った活動を中心としたものから「聞くこと」「話すこと（やり取り）」の2技能の慣れ親しみを意識した言語活動を中心とした活動へと無理なく移行させる小学校2年生のカリキュラム作成に取り組む予定である。

## 引用文献

- アレン玉井著. 2010. 『小学校英語の教育法 理論と実践』. 東京：大修館書店
- 酒井秀樹・田縁真弓 他著. 2017. 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』. 東京：三省堂
- 文部科学省. 2018. 『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』. 東京：開隆堂出版
- 文部科学省. 2018. 『文部科学省新学習指導要領対応小学校外国語教材 Let's Try! ①・②』. 東京：明昌堂
- 中本幹子著. 2001. 『A Teddy Bear』 東京：アプリコット出版
- 中本幹子著. 2002. 『Tiny Boppers』 東京：アプリコット出版
- 中本幹子著. 2001. 『A Beautiful Butterfly』 東京：アプリコット出版
- 文部科学省. 2017. 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』 東京：旺文社
- Eric Carle. 1969. 『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』 New York：The World Publishing Company
- Bill Martin Jr./Eric Carle. 1967. 『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』 New York:Henry Holt and Company
- アルティアセントラル. 2019. 「アルティアセントラル幼稚園・保育園・子ども園向けプログラム」. 愛知：アルティアセントラル

〔付記〕本稿は、平成31年度比治山大学研究助成「認定こども園と小学校低学年における外国語教育についての研究」による研究成果の一部である。

〔謝辞〕本研究に際しまして、江田島市教育委員会、江田島市福祉保健部子育て支援センター、江田島市立江田島小学校、認定こども園えたじま、株式会社アルティアセントラルの皆様にご協力をいただきました。ここに記し、深謝申し上げます。

〈キーワード〉

小学校外国語・低学年・中学年・認定こども園・カリキュラム

大里 弘美（現代文化学部言語文化学科国際コミュニケーションコース）

西川 珠美（広島県江田島市立江田島小学校）

（2019. 12. 6 受理）